

日本化薬グループの事業

日本化薬グループの社会的使命と、主な4つの事業をクローズアップし、代表的なCSRの取り組みをご紹介します。より詳細な情報はウェブサイトをご覧ください。

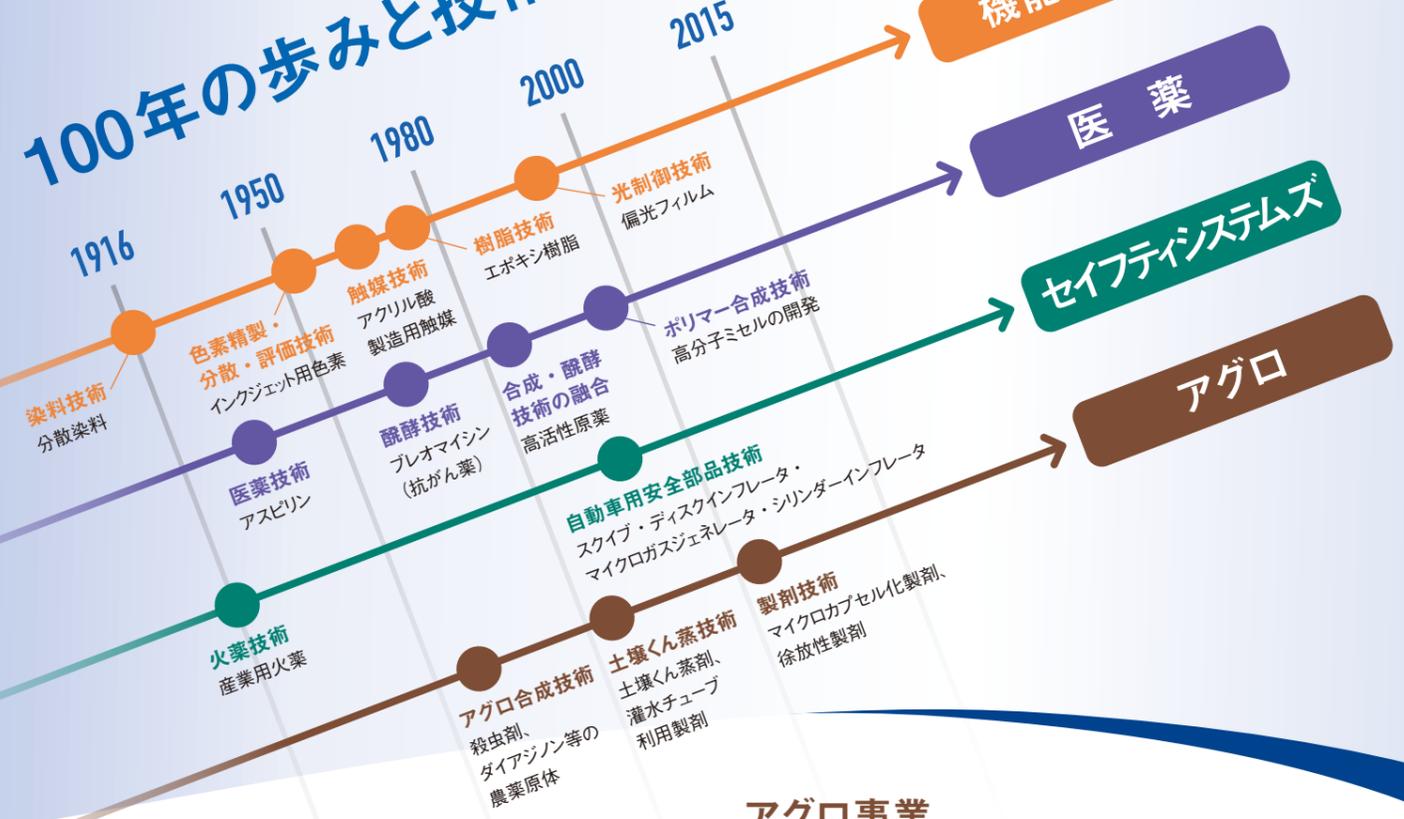
<http://www.nipponkayaku.co.jp/company/business/>

患者様に真に必要とされる医薬品や医療材料を信頼性の高い情報とともに医療機関へ提供することに努めています。

樹脂・色素・触媒・加工をコアに環境・省エネルギー分野で「熱と光を化学」して持続的に成長します。



100年の歩みと技術進化の歴史



CSR TOPICS

私たちの代表的な取り組みをご紹介します

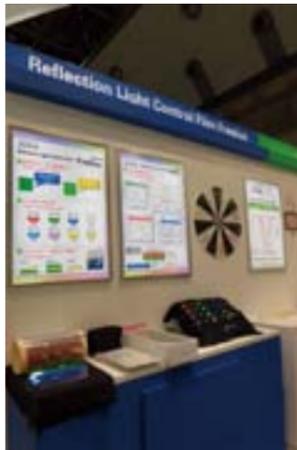
機能化学品事業

環境・省エネ分野で「熱と光を化学」して社会に貢献できる製品に取り組んでいます

機能化学品事業は、樹脂・色素・触媒・加工をコアに環境・省エネルギー分野で「熱と光を化学」して、人に優しく社会に貢献できる製品の開発・提供に取り組んでいます。

2014年度、特定波長反射フィルム「Freelux」を開発しました。「Freelux」は、特定波長を任意に反射することができ、有機物でありながら金属蒸着膜と同様な鮮やかな金属光沢を表現することができます。また、特定波長をシャープに反射することができるために、高い透明性（無着色）を維持しながら、紫外線域から近赤外線域まで広範囲をカバーすることができます。

現在、眼に悪影響を及ぼす可能性がある紫外線、ブルーライト、近赤外線等を選択的にカットするためのレンズ用途への応用、遮熱フィルムとして車載・建材用途への展開が期待されています。



「Freelux」は、iOFT2014 国際眼鏡展に出展しました

医薬事業

医療従事者のパートナーとして患者様のクオリティ・オブ・ライフ向上に貢献します

日本化薬は、がん治療や自己免疫疾患治療の主要な役割を果たしている医薬品のバイオ後続品を積極的に開発しています。

2013年に日本化薬初のバイオ後続品「フィルグラステムBS」を上市し、2014年は日本初の抗体バイオ後続品「インフリキシマブBS」を上市しました。バイオ後続品を幅広く提供することで、「いつでも、どこでも、誰でも」より良い医療、質の高い医療を等しく受けられる社会を実現したいと考えています。

これからも、医療従事者のパートナーとして患者様のクオリティ・オブ・ライフ向上に貢献することを目指していきます。



日本化薬 医薬関係者向け情報サイト MINK Web

セイフティシステムズ事業

グローバル化への対応 現地生産による安定供給を実現します

いまや世界中の人々の生活に欠かすことのできない自動車。今後も世界中でますます需要が増えていくと考えられています。

このようなクルマ社会の発展は同時に、これまで以上に自動車事故が発生するリスクも高まります。自動車の能動的・受動的安全技術は年々飛躍的な進歩を遂げており、近年ではエコ性能に加え、安全性能が自動車選定の動機付けの大きなポイントとなっています。

日本化薬は、従来から培ってきた火薬の技術を応用し、乗員保護のための衝突安全技術の要素の一つであるエアバッグ用インフレーター、シートベルトプリテンショナー用および歩行者頭部保護を目的としたポップアップフード用マイクロガスジェネレータを世界5拠点で生産し、必要とされる地域で、必要とされる数量を供給し、世界中の自動車の乗員の安全に貢献していきます。



自動車用安全部品

アグロ事業

農薬の提供を通じて 世界の食糧需給に貢献します

世界的な人口増加による食糧需給問題や国内の食料自給率問題、また温暖化による雑草、病害虫による農産物被害が増加するなど農業を取り巻く環境が年々厳しくなる中で、安全・安心な農産物を安定的に生産し、市場に供給することが必要とされています。

アグロ事業部では、独自の目線から保有技術を工夫・活用しながら、さまざまな農薬を製品として提供しております。例えば、顆粒状にし、使用時の利便性を向上させた「リーフガード顆粒水和剤」や、田植え直後や直播栽培の若い稲を加害するスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)を長期間の間、加害を食い止める徐放化製剤の「スクミハンター」が挙げられます。

このように、農産物生産現場のニーズを汲み取り、さまざまな技術を駆使しながら、新たな農薬を開発・上市して農産物の安定生産と市場への供給に貢献しております。



左：リーフガード 右：スクミハンター